

ありなしの風にはらりと雪紐の

散るも親しき冬あたたかく

(R)

お正月はいつまで・・・

元旦・初市と二が日がお正月でしょうか。それとも七草までがお正月？
十日は山形の初市、またまだお正月気分。では十一日の鏡開きまでが…。

十五日は小正月。旧暦では満月の夜、農耕に関する様々な行事がありました。農機具に感謝し、お斎灯では古いお札やお習字、松飾りを外して藁と焚き上げます。雪中田植・田の草取り・鳥追いと行事は続きます。それから二十日は女正月とも言います。また「正月」が一月の別称だとしたら三十一日までがお正月。そして、二月は旧正月ともいいます。

今では、それぞれの家の考え方が大きいように思えます。お年寄りのいるお家では代々引き継ぐ行事があるのでしよう。でも、逆に商業ペー
スに乗せられて何も考えず行事を行ってしまったこともままありそ
うです。にぎやかなお正月の後は、静かに七草粥をいただいたり、風邪
をひかないようにと納豆汁を食べ温まったりします。二日とろろ(一月二
日)、八日とろろ(二月八日)と言って玄関先にとろろを撒いて一つ目の化
け物が滑って転んで家に入らないようにとか。風が入らないようにとも
言い、家族でとろろご飯を食べます。米・塩・餅・豆腐・とろろ・大根・
雪など、古来、日本人は「白」という色を、汚れのない清らかなもの清
浄なもの、神聖なものとして特に大切にしてきました。・・・

芹乃栄う(せりさかう)

1月5日～1月9日頃

寒さも少しずつ厳しさを増してきました。春の七草、雪国にとっては七草は見ることはできませんので代わりに納豆汁があります。寒い時期とても体が温まります。薬味には、夏に干しておいた青じそをもみ入れます。発酵食品の納豆、日本のハーブを食べ冬のり切ったのでしょね。(き)

水泉動く(すいせんうごく)

1月10日～1月14日頃

みず木に白の団子と鯛や大黒様の色とりどりの舟せんべいを下げて豊作を願いました。町内の子供達は、各家を廻り「団子けでけらっしやい。」と布の袋に一個ずつ入れてもらいました。

寒い夜、川端地区の馬の背のようなツルツルの雪道を上級生の後についてウキウキと歩いた覚えがあります。(み)

鰯雑始めて雛く(きじはじめてなく)

1月15日～1月19日頃

おさいど。人々は古い「お札」や正月飾りを火の中に投じる。火にかざした「水木団子」を食うと「病にならない」、燃え残りの藁を煙草になぞらえ煙を吸うと「虫歯にならない」とされていた。また半紙の書をかざし、それが高くあがるほど字が上達するので「天筆あげ」とも呼ばれていた。(海藤忠男)



2015.1.15 熊野神社のお斎灯・横山

読書会だより ⑪

大石田の小寒のころ

七十二候より

大石田町立図書館

お斎灯はこの辺りの地区の行事です。横山のおぐまん様では赤や黄、白の百目(冬)蠟燭などたくさん灯明を捧げ、御祈禱が済むと、葦や藁、お札や習字などを入れたお斎灯が焚きあげられます。納豆餅の振る舞いがあり賑わいます。御御供(おみごく)に蜜柑も頂きました。